

# 電通グループのデータ保護に対する取り組み

## 電通グループ グローバルデータ保護原則

電通グループは、データ、テクノロジー及びクリエイティビティ領域におけるリーダーであり、その事業は、世界中の多くの人々の生活に浸透しています。そのため、電通グループは、社会のすべての人々に持続的な価値をもたらすための機会、能力及び責任を有しています。

電通グループのデータ保護に対する取り組みは、「電通グループ行動憲章」に定められた基準及び考え方に基づいて行われています。

「世の中の幸福に貢献すること」は、電通グループの行動指針である「8 WAYS」の一つとして定められ、私たちの行動指針として、その行動すべてに浸透しています。

電通グループが共に働く組織のために真に持続可能な価値を創造し、信頼されるパートナーとなり、人々の幸福及び私たちが仕事や生活をしているコミュニティの幸福に貢献するためには、個人データを慎重にかつ敬意をもって取り扱わなければなりません。

「電通グループ グローバルデータ保護原則」は、電通グループが世界中のどこで事業を行うかにかかわらず、個人データ処理において、「世の中の幸福に貢献すること」とは何かを理解する際の指針となるものです。本原則は、電通グループの世界中の事業において、個人データの収集、利用及び管理についての方針、基準及び行動の在り方を定めています。

また、本原則は、電通グループが事業上のサービスを提供する際にクライアントのために取り扱うデータとともに、電通グループの従業員に関するデータなど電通グループ自身の事業運営のために処理する個人データにも適用されます。

### 原則 1- 説明責任 (Accountability)

第一の原則は、説明責任です。説明責任は、電通グループが表明したことを確実に実行し、「8 WAYS」に忠実であり続けるための強力な基盤となるものです。

本原則における「説明責任」とは、事業全体にわたって適切なガバナンス、人財、業務プロセス及びシステムに対する投資を続け、電通グループが、その事業を行う世界中のどこにおいても、ステークホルダーが求める誠実さ、品位及び責任をもって行動していることを、ステークホルダーに対して客観的に示すことを意味しています。

- ✓ 電通グループは、データ保護義務及び本原則を確実に遵守するために、適切なガバナンスその他の必要な措置を実施します。

### 原則 2- データプロテクション・バイ・デザイン (Data Protection by Design)

データ保護の対策は、電通グループが個人データを収集、利用及び管理する方法にあらかじめ備わっていなければなりません。データ保護の対策については、新たにサービスやシステムが開発された後になってからはじめて検討されるようなことであってはなりませんし、開発後にコンプライアンスの遵守状況を事後的にチェックするだけではいけません。

データ保護を適正に行うためには、「ヒューマン・セントリック・アプローチ」を採用すること、すなわち個人データの取り扱いに関して何らかの問題が生じた際にその影響を受ける人々の視点からこの問題を捉え、リスクに対する対処方法について事前に検討しておくことが必要です。

- ✓ 電通グループは、データの収集及び利用が個人に与える影響を体系的に検討し、それによって特定されたリスクについて責任を持って管理します。

### 原則 3-公平性及び透明性(Being fair and transparent)

個人データを責任持って利用することは、デジタル社会において、個人及び企業にとっての新たな価値を生み出す原動力になると考えています。この価値創造の実現に向けて必要な信頼を築き、それを維持するためには、データの収集及び利用が公正かつ適法でなければならず、また、その透明性が確保されていなければなりません。

個人は、自分の個人データがどのように収集され、利用されるかについて、十分な情報が提供され、それを適切に管理する方法も提供されるべきです。また時として、個人が自身の個人データに対して法的な権利を有することもあります。

- ✓ 電通グループは、必要に応じてクライアント及びサプライヤーと緊密に連携し、個人データの取り扱いに関する明確な情報及び選択肢を個人に対して適切なタイミングで提供します。
- ✓ 電通グループは、個人が自身のデータを自分で管理することのできる法的な権利を尊重します。
- ✓ 電通グループは、各国のデータ関連保護法制で認められている範囲内、かつ、プライバシーポリシー又はクライアント若しくはサプライヤーとの契約で定められている制限・制約の範囲内で、個人データを利用します。

### 原則 4-サプライヤーの管理(Managing suppliers)

電通グループは、信頼できるサプライヤーとともにデータドリブンサービスを提供し、電通グループの事業を効果的かつ効率的に推進しています。また、サプライチェーンを適切に管理するために、リスク想定に基づくフレームワークを用いています。このフレームワークには、高い誠実さや倫理観、かつ責任ある事業遂行に対する電通グループの取り組みを反映するために、必要に応じてサプライヤーに対するデューデリジェンスを行うことも含まれます。この取り組みは、電通グループがサプライヤーに求める以下の事項によって実現できると考えます。

- ・個人データ保護の重要性を理解するための啓発活動を実施すること。
  - ・個人データ保護のための強固なセキュリティ方針、基準、慣行及び管理を維持すること。
  - ・法令等に従って提供された個人データのみを利用すること。
  - ・事前の承諾がない限り、電通グループから提供された個人データの利用、開示その他の処理を行わないこと。
  - ・合意された目的を達成するために必要な個人データのみを収集し、処理すること。その収集及び処理が目的の達成のために適切であり、決して過剰なものであってはならないこと。
  - ・セキュリティ対策の実施及びデータ処理契約の締結が適切になされていない第三者は使用しないこと。
- ✓ 電通グループは、データ保護に関するリスクを事前に管理するために、サプライチェーンを責任持って管理します。

### 原則 5-データセキュリティ(Data Security)

個人データを安全に管理することは、個人データの機密性、完全性又は可用性が失われることにより生じるあらゆる被害から人々を守るために不可欠です。

- ✓ 電通グループは、個人データの不正利用、不正アクセス又は偶発的な消失を防止するために適切な措置を講じます。

## 原則 6 – 目的並びにデータの最小化、保存及び正確性(Purposes, data minimisation, retention and accuracy)

個人データの収集及び利用の目的を明確にすることは、個人データを適切に管理するための基本です。

データ最小化の原則とは、データ収集がなされる目的を達成するために必要最小限の個人データのみを収集することを意味します。データがその目的を達成する上で必要性を失った場合、データを然るべく消去又は識別不能にすべきです。

さらに、個人データは、その性質及び処理される状況に応じて、その処理の目的を果たすために十分に正確であるべきです。

- ✓ 電通グループは、データ最小化の原則を尊重します。
- ✓ 電通グループは、個人データが正確かつ最新であるように、クライアント及びサプライヤーと協力します。